



第19回JR連合青年女性役員研修会



2年ぶりの開催!!

本研修会の目的

2021/3/19 開催
総勢 38名の青女役員が参加!

1987年4月、国鉄分割・民営化により、全国6社の旅客会社と1社の貨物会社が発足しました。そして、国鉄時代から繰り返されてきた鉄道労働運動の対立と分裂の歴史に終止符を打ち、新たなJR労働運動の創造を目指して、JR連合は1992年5月に結成し、今年で29年となります。

これまでの諸先輩方の努力によって、JRを代表する産業別労働組合となっていますが、様々な課題があるのも事実です。魅力あるJR産業をつくっていくためには、さまざまな政策課題の解決に取り組む必要があります。そのためには、政治との関わりが重要となります。

本研修会を通じて、今後も学習を続けていく「気付き」や「きっかけ」にしていきます。

本研修会の目的 4項目

1. 取り巻く情勢を理解し、私たちの立ち位置を認識する
2. JR連合の取り組みを通じて、労働組合の役割を理解する
3. 自分が労働組合の役員として果たしたい役割を考える
4. 上記3項目に関し全国の同世代の仲間と活発に意見交換する



荻山会長

◆開講式・オリエンテーション

◆講義① 「社会変容に能動的に挑み労働組合の役割を発揮しよう」

荻山市朗会長

◆講義② 「新型コロナウイルス感染症によるJR産業への影響とJR連合の取り組み」

中村鉄平交通政策部長

◆講義③ 「労働組合の政治活動」

今井孝治企画部長

◆グループディスカッション

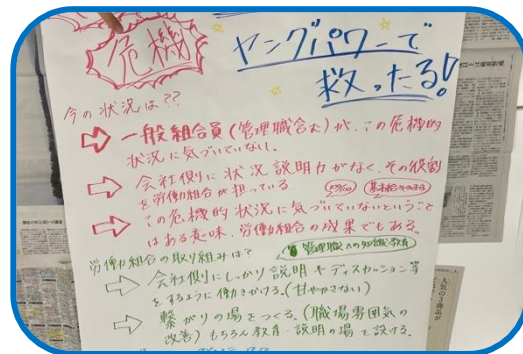
「労働組合としてコロナ禍と今後に向けて取り組むべき課題」



2年ぶりの開催となった本研修は、ウェブ会議システムを利用しリモート参加者(14名)を含む、38名が参加しました。まずJR連合の荻山会長、中村交通政策部長、今井企画部長が講義を行いました。コロナ禍によりJR産業は大きなダメージを受けている中、ポストコロナの社会変容に向けて考えることは何か、その中でどのように労働組合の役割を発揮していくか、そして政治との関わりや関係議員との連携などについて学習しました。

その後、リモートグループ2つを含む6つのグループに分かれグループディスカッションを行い「労働組合としてコロナ禍と今後に向けて取り組むべき課題」について話し合いました。

今回の研修会で理解度を深める事ができたと同時に、共に活動を行っている全国の仲間が集まる事により、横の繋がりを感じることでできた大変有意義な研修会となりました。



JR四国労組

5名参加!